



日本産ミツギリゾウムシ科概説(2)

森本 桂

**Tribe Tracheizini** ヒメミツギリゾウムシ族  
 KLEINE (1938) は、小型で雌雄の吻がほぼ同形の仲間をこの族に含めたが、これは系統的に雑多なものを寄せ集めた感じがあり、DAMOISEAU (1963) は一部の属を他へ移している。

日本産属への検索表

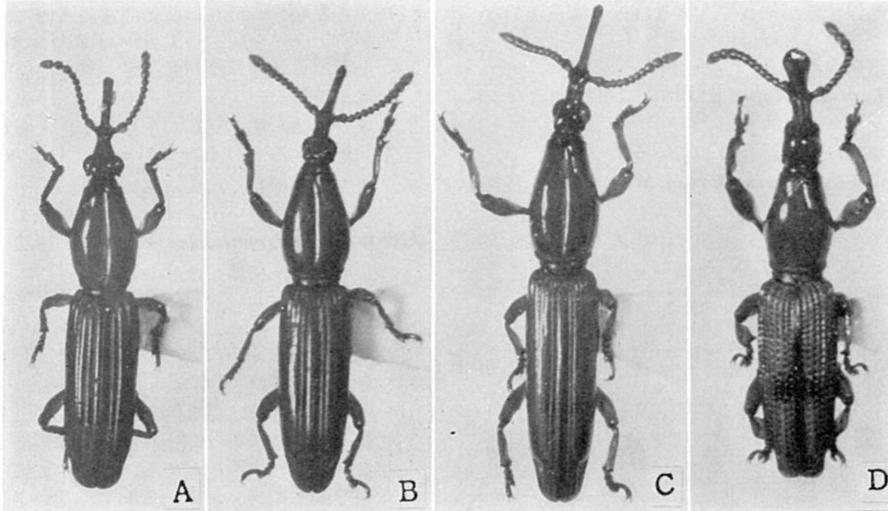
1. 上翅の第1~2点刻列は深い溝となり、他の点刻列は極めて浅いか基部を除いて不明瞭；前胸板に縦溝がある…………… *Trachelizus* SCHOENHERR

**Genus *Trachelizus* SCHOENHERR, 1840** ヒメミツギリゾウムシ属

インドからニューギニアにかけて14種が分布する。日本の種はいずれも赤褐色で上翅中央後方に黒紋があり、シイ・クサギなどの花に集まる。

日本産種への検索表

1. 頭部は眼の周囲、後縁及び下面がしわと微毛でフェルト状を呈している。上翅肩部は三角状に前へ張りだし、第4間室は基部直前で消失、第5間



第8図 A: *Trachelizus bisulcatus* FABRICIUS  
 C: *Trachelizus makiharai* MORIMOTO

B: *Trachelizus japonicus* MORIMOTO  
 D: *Miolispa cruciata* SENNA

- 1'. 上翅の各点刻列は同じ強さ…………… 2
2. 頭部はやや長く、眼は前方によってつく……………  
 ……………… *Miolispa* PASCOE
- 2'. 眼は大きくて頭部の横につき、頭部は三角か四角…………… *Hypomiolispa* KLEINE

- 室は基部で明瞭；体長\*5.5~11.5mm……………  
 ……………… *bisulcatus* FABRICIUS
- 1'. 頭部にフェルト状部はない。上翅の肩は前方へ張りださず、第4、5間室は基部で同形…………… 2

\* この概説では吻を含む体長を記した。

2. 体は細長く、体長 10.4~15.8mm；雄の第5腹板に半円状の隆起条があり、その内部は不規則に点刻されて短毛が密生する；雌の第5腹板は単純

2'. 体長 6.5~9.8mm, 雄の第5腹板に三角状の隆起があり、その内側は後縁両端を除き無毛で光沢がある；雌の第5腹板は中央後方に1対の横長の窪みがある……………*japonicus* MORIMOTO

14. *Trachelizus bisulcatus* (FABRICIUS, 1801)  
ヒメミツギリゾウムシ (モンクロアカミツギリゾウムシ)

頭部にフェルト状部があることや上翅の形で容易に区別できる。第3点刻列も浅いが認められ、それ以外の点刻列も多少窪む。

分布：筑前沖の島、屋久島、トカラ中之島、台湾、中国、フィリピン、スリランカ~ニューギニア、オーストラリア。

15. *Trachelizus japonicus* MORIMOTO, 1976  
ツヤヒメミツギリゾウムシ

前種に似るが光沢は強く、上翅の第3間室よりは平ら。いろいろの花からとれる。宮崎県青井岳の広葉樹伐跡地で数m<sup>2</sup>に生えたヘクソカズラから100頭余が採集されたことがある。

分布：高知、宮崎、屋久島、奄美大島、沖縄本島、西表島。

16. *Trachelizus makiharai* MORIMOTO, 1976  
ナガツヤヒメミツギリゾウムシ

前種に酷似するが細長く、第5腹板の構造が異なる。

分布：石垣島、西表島。

Genus *Hypomiolispa* KLEINE, 1918 ツヤケンヒメミツギリゾウムシ属  
東南アジアに42種が分布している。

17. *Hypomiolispa mikagei* MORIMOTO, 1976  
ツヤケンヒメミツギリゾウムシ  
赤褐色で光沢がなく、上翅は中央後方に黒紋があ

る。眼が後頭部のくびれに近接することでフィリピンの *ocularis* KLEINE に似ている。体長 7.7~8.9 mm.

分布：石垣島、台湾。

Genus *Miolispa* PASCOE, 1862 ツナガヒメミツギリゾウムシ属

東南アジアとオーストラリアに70種余を産する大きな属で、上翅に同じ大きさの強い点刻が規則的に並ぶ点刻列をもつものが多い。

18. *Miolispa cruciata* SENNA, 1898

ジュウジヒメミツギリゾウムシ (フタテンアカヒメミツギリゾウムシ)

光沢ある赤褐色で、上翅会合部と中央直後の短い横帯は暗黒褐色。雄の吻は先端で広がり、大あごの内側に空間ができる。雄ではまた中、後腿節が広く、その其部背面は丸く張りだす。体長 6.2~9.2mm.

分布：屋久島、トカラ中之島、台湾、フィリピン、ボルネオ。

Tribe Arrhenodini ミツギリゾウムシ族

大型の種類を含む族で、腿節に歯状突起のあるものが多い。KLEINE (1938) は41属201種をあげている。DAMOISEAU (1967) は次の族と共に Brentinae を構成させている。

日本産属への検索表

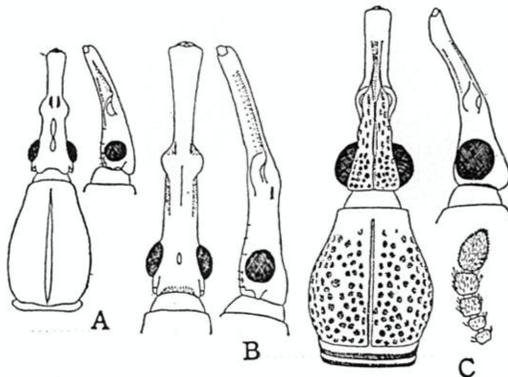
- 1. 上翅の第1~3点刻列は他よりも著しく深い；雄の前腿節に三角状の大きな突起があり、吻は細長くて先端で広がり、前吻部背面両側に歯状突起列がある…………… *Caenorychodes* KLEINE
- 1'. 上翅の各点刻列は同じ強さ；雄の前腿節に突起を欠く…………… 2
- 2. 雄の吻は頭部と同幅かやや狭く、大あごの間に空間ができる…………… *Baryrhynchus* LACORDAIRE
- 2'. 雄の吻は細長く、大あごは小さい…………… *Pseudorychodes* SENNA

Genus *Caenorychodes* KLEINE, 1920 トゲミツギリゾウムシ属

光沢のある美しい13種を含み、雄前腿節に大きな突起があることと、上翅第1・2点刻列が深く、第3点刻列もやや深いことが特徴である。日本の2種はつぎの点で区別できる。

- 1. 上翅の基部紋は第3間室にあって幅よりはるかに長く、ときに第5間室基部に小紋があり、稀に第2間室基部にも紋がある。上翅中央紋は第4、8~9間室にあり、5~7間室にない；体は赤褐~黒褐色で、前胸板中央両側に暗色条があるものが多い…………… *planicollis* WALKER
- 1'. 上翅の基部紋は第2~4間室にあって卵形、中央紋は第4~10間室にある；黒色で上翅の赤色紋は明瞭…………… *octoguttatus* NAKANE

19. *Caenorychodes octoguttatus* (NAKANE, 1963) ヤツモントゲミツギリゾウムシ  
光沢の強い黒色で、上翅赤色紋の明瞭な美しい種である。体長 11.9~22.0mm.



第9図 A: *Trachelizus japonicus* MORIMOTO  
B: *Trachelizus makiharai* MORIMOTO  
C: *Hypomiolispa mikagei* MORIMOTO

分布：九州（中根による）、トカラ中ノ島。

20. *Caenorychodes planicollis* (WALKER, 1859) ウスモントゲミツギリゾウムシ

形態的には前種に酷似する。赤褐～黒褐色で、橙～赤褐紋はやや不明瞭。体長 13.5～21.2mm。

分布：屋久島，種子島，台湾，中国，ビルマ，タイ，インド，スリランカ。

Genus *Baryrhynchus* LACORDAIRE, 1866

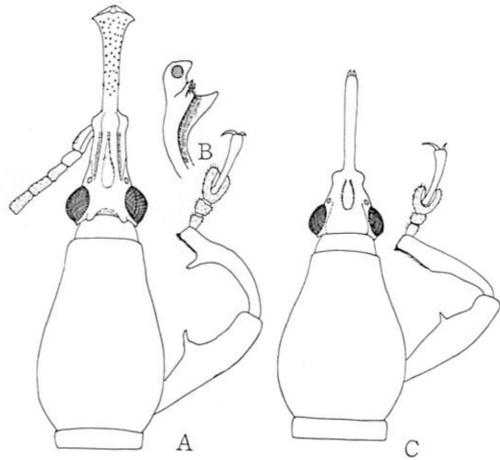
ミツギリゾウムシ属

インド，ニューギニア，日本の間に21種分布し，日本に3種いる。属名は，正綴として *Baryrhynchus* と接語部に r を2つ入れることが多かったが，原記載は r が1つであるのでこれを用いるべきである。

日本産種の検索表

1. 上翅には2対の大きな赤色紋がある……………  
…………… *tokarensis* OHBAYASHI et SATO
  - 1'. 上翅には基部，中央前，中央後，垂先端の各紋がある…………… 2
  2. 前胸は光沢がある；上翅の中央前紋は第4，5，8～9間室にあり，第6間室で常に消失し，ときに第5間室でも消失することがある；上翅端外角は鈍い直角状…………… *poweri* ROELOFS
  - 2'. 前胸は光沢が欠く。上翅の中央前紋は第4，5～6，8～9間室にあり，ときに第7間室にもあって5～9間室紋は横に連続し，また稀に第4間室紋が3間室へ張り出すことがある；上翅端外角は三角状に突出する…………… (*miles* BOHEMAN)
21. *Baryrhynchus poweri* ROELOFS, 1879 ミツギリゾウムシ

赤褐～黒色で前胸は光沢が強い。小型個体では大あごが三角状で，吻先端は丸く湾入するが，中～大

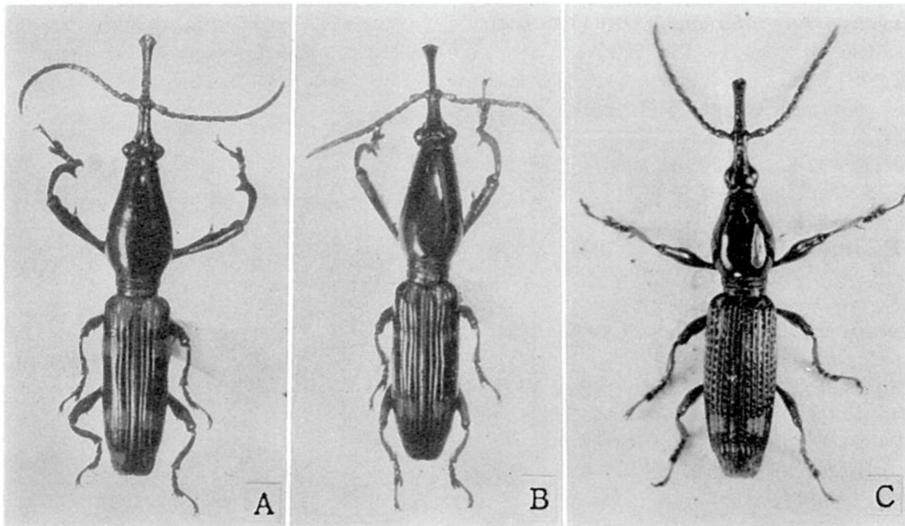


第10図 *Caenorychodes octoguttatus* NAKANE (A: male; B: male tibia, ventral aspect; C: female) 型個体では大あごは細長くて内側に空間をつくり，吻先端は二湾状になる。体長 10.6～23.5mm。

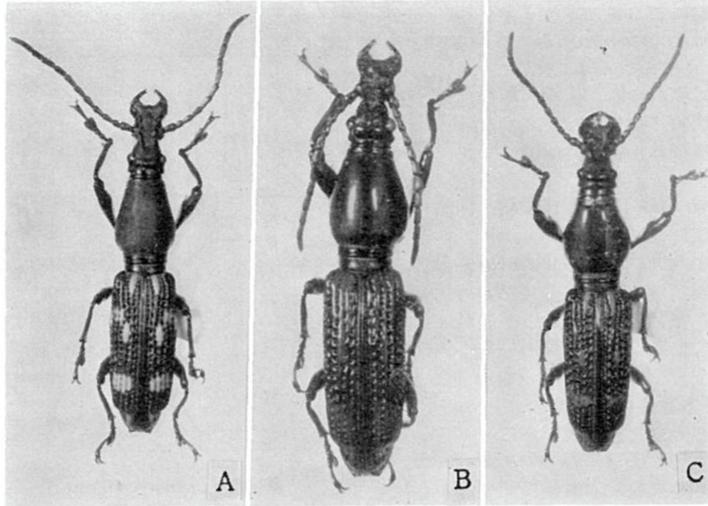
分布：本州，四国，九州，屋久島，奄美大島，徳之島，沖縄，台湾，中国，インドシナ。三輪，中条（1939）は北海道を分布にあげたが，確認の必要がある。

安立，神谷（1933）原色日本甲虫図譜，41図版16図に台湾ミツギリゾウムシ *Ananesiotes insularis* KLEINE として図示されているのは本種と思われる。

22. *Baryrhynchus* sp. ヤエヤマミツギリゾウムシ 著者（1976）が *miles* BOHEMAN として記録したもので，大型個体の大あごが真の *miles* と異なるので再検討中である。



第11図 A: *Caenorychodes octoguttatus* NAKANE B: *Caenorychodes planicollis* WALKER C: *Pseudorychodes insignis* LEWIS, type, Miyanoshita



第12図 A: *Baryrhynchus* sp. (Ishigaki)  
 B: *Baryrhynchus tokarensis* OHBAYASHI et SATO  
 C: *Baryrhynchus poweri* ROELOFS

セボシフトミツギリゾウ *B. miles* として平山(1940)原色甲虫図譜29図版26図に図示されているのは *Prophthalmus* 属のものであり、加藤(1933)分類原色日本昆虫図鑑9, 27図版2図は *B. poweri* の大型個体である。

分布: 石垣島, 西表島。

著者が今迄に検したこの両島の *Baryrhynchus* はいずれもこの種で, MIWA (1933), CHŪJŌ (1973) が西表島から記録した *poweri* は本種の可能性がある。東(1975)沖縄の昆虫類(風土記社)113ページに *poweri* として図示した石垣島産は明らかに本種である。

23. *Baryrhynchus tokarensis* OHBAYASHI et SATO, 1966 ヨツモンミツギリゾウムシ

この属の多くの種は上記2種のような上翅紋をしているが、本種は基部紋と中央前紋、及び中央後紋と亜先端紋がそれぞれ拡大融合して大きな紋をつくるのが特徴である。形態的には *poweri* に酷似する。体長 20.5~21.5mm。

分布: トカラ悪石島。

Genus *Pseudorychodes* SENNA, 1894 ムツモンミツギリゾウムシ属

この属は東南アジアに12種分布する。

24. *Pseudorychodes insignis* (LEWIS, 1884) ムツモンミツギリゾウムシ

上翅の基部紋は第4~5間室, 中央前紋は8~9間室, 中央後紋は3~7間室にあり, 第3間室に不明瞭な亜先端紋がある。体長 8.3~14.6mm。

分布: 北海道, 本州, 佐渡, 四国, 九州, 屋久島, 台湾。

小型のミツギリゾウムシ雌は本種に似るが、上翅中央前紋が第4~5間室にないことや、間室が隆起することなどで区別できる。

Tribe *Amorphocephalini* オニミツギリゾウムシ族

アフリカから東南アジアにかけて17属が分布し、雌雄とも吻の中、基部は横に張りだすが、雌では吻前部は円筒状をしている。

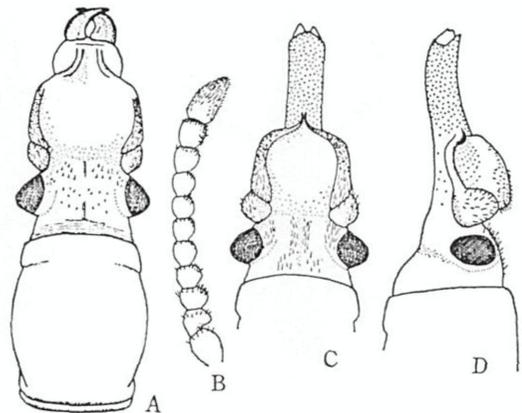
日本産属への検索表

- 1. 雄の吻前部は後部より広い……………  
 …………… *Amorphocephala* DAMOISEAU
- 1'. 雄の吻前部は後部より狭い……………  
 …………… *Leptamorphocephalus* KLEINE

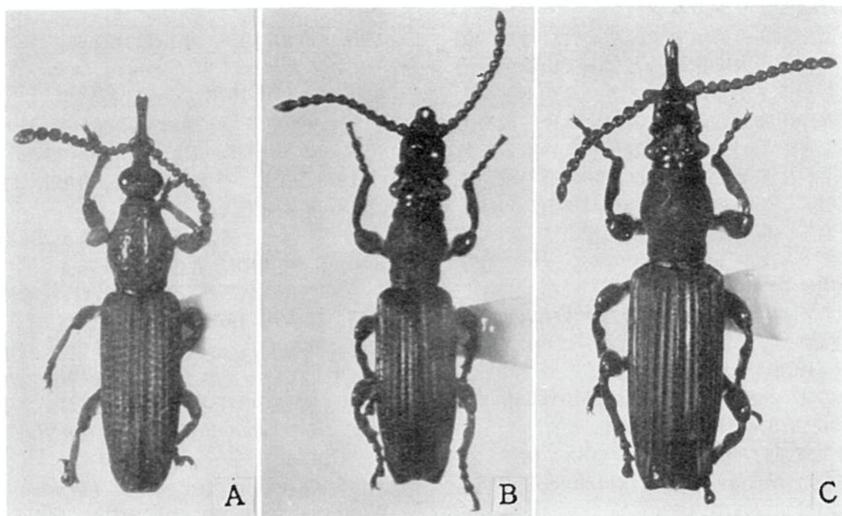
Genus *Amorphocephala* DAMOISEAU, 1966

オニミツギリゾウムシ属

アフリカ, 地中海沿岸, 中近東, カラチから15種と日本に1種分布する。



第14図 *Leptamorphocephalus fumosus* MORIMOTO (A-B: male; C-D: female)



第13図 A : *Hypomiolispa mikagei* MORIMOTO  
 B-C : *Leptamorphocephalus fumosus* MORIMOTO  
 (B : male ; C : female)

25. *Amorphocephala gyotokui* (NAKANE, 1963) アカオニミツギリゾウムシ (セスジミツギリゾウムシ)

NAKANE (1963) により福岡県朝倉郡古賀と奈良春日山産の標本で記載されたもので、著者はまだ実物を検する機会がない。原記載によると前胸に中央溝があるが、これはアフリカの *sulcatus* CALABRESI で基部に溝があるだけで他種には認められない顕著な特徴である。体長 10~10.5mm (吻を除く)。

分布：本州，九州。

Genus *Leptamorphocephalus* KLEINE, 1916  
 ホソオニミツギリゾウムシ属

東南アジアに10種を産し、日本から下記の1種が記録されている。

26. *Leptamorphocephalus fumosus* MORIMOTO, 1976 ツヤケンオニミツギリゾウムシ

暗褐~黒褐色で光沢を欠く。吻基部両側と頭部に黄色毛があり、上翅間室にも一列に灰色短毛がある。体長 6.5~12.5mm。

分布：屋久島，奄美大島。

(九州大学農学部)

○フトホシカミキリ *Cervoglenea lata* の記録

フトホシカミキリは GRESSITT 氏によって 1935 年に、? *Glenea lata* としてクラル (恒春) で自ら採集した 1 ♀ に基づいて記載されたが、1951年に新属 *Cervoglenea* を創設し、本種をその属のタイプ種とした。しかしながら原記載以来本種が採集されたという記録は南山溪からの僅か 1 例(林, 1966)



が知られているのみである。筆者は桃園県三光村の集材所付近 (標高約700m) のホソバクサギ *Clerodendron cyetophyllum* TUROZ. (クマツヅラ科) の生葉のフィービング、またはひこばえに飛来した本種を多数採集したので報告する。

1 ♀, 台湾省桃園県三光村, 28. v. 1978 ; 5 ♂♂, 9 ♀♀, 同上, 16~18. vii. 1978, 全て筆者採集。

なお♂の形態は♀に比べかなり小形(♂の体長7.5mm前後, ♀の体長12mm前後)で、触角はより長く体長の約2倍に達し、上翅は短く先端に向っていくぶん強く狭ばまり、前頭は中央部に円形、或は中央の浅い溝に沿った部分以外はクリーム色の鱗片 (scall hairs) に被われ、またこの鱗片による斑紋は全体的に♀に比べ発達する傾向があり、前胸腹面の前縁、腹部下面の第5節を除く各節(♀は4節を除く各節)の両端に円い斑紋を有する。前胸・鞘翅の斑紋は♂♀共に形、大きさに多少変異が認められた。文末ながら、御多忙なところ快く、植物鑑定をしていただいた東京農業大学の林弥栄教授に心からお礼申し上げます。  
 (東京都品川区, 下村 徹)

## ○富士山の好蟻性アリヅカムシ

富士山の東側斜面の御殿場口、新5合目付近(標高1450m)は一面の火山礫地帯となっているが、その下部には苔やイタドリ、シモツケ、クサボタン、ミネヤナギ等の植物が低温と貧弱な土壌条件に打ち勝ち塊状に生育し、パッチ状に分布している。これらの植物群落の中やその付近には、10数種の蟻が生息し、巣を形成しているが、これらの巣中からは数種のアリヅカムシが採集されるので報告する。

1. コヤマトヒゲトアリヅカムシ *Diartiger fossulatus* SHARP

宿主蟻: アメイロケアリ *Lasius umbratus* (NYLANDER)

2頭, 4. v. 1978, 小塩政行採集。

クロヤマアリ *Formica japonica* MOTSCHULSKY

1頭, 23. vii. 1978, 田野口康彦採集。

本種は蟻の友好的共棲者(WASMANN: 1899)として、従来から *Lasius*, *Paratrechina* 属等の蟻と共棲することが知られている。

2. *Basitrodes oscillator* (SHARP)

宿主蟻: ツノアカヤマアリ *Formica fukai* WHEELER

5頭, 29. viii. 1978, 小塩政行採集。

クロヤマアリ *Formica japonica* MOTSCHULSKY

1頭, 12. xi. 1978, 近藤正樹採集。

アメイロケアリ *Lasius umbratus* (NYLANDER)

2頭, 4. v. 1978, 小塩政行特集。

SHARP (1883) の記載以来好蟻性アリヅカムシとして知られていたが、過去の報告では宿主蟻の同定に問題があった。

3. *Basitrodes longulus* JEANNEL

宿主蟻: アンナガアリ *Aphaenogaster famera*

## SMITH

1頭, 23. xi. 1978, 小塩政行特集。

ツノアカヤマアリ *Formica fukai* WHEELER

8頭, 29. viii. 1978, 小塩政行特集。

クロヤマアリ *Formica japonica* MOTSCHULSKY

1頭, 10. x. 1977. 1頭, 14. viii. 1978. 4頭, 12. xi. 1978. 以上, 近藤正樹採集。10頭, 11. xii. 1978,

田野口康彦採集。

ヤマクロヤマアリ *Formica lemani* BONDROIT

8頭, 5. xi. 1978, 近藤正樹採集。

エゾアカヤマアリ *Formica yessensis* FOREL

1頭, 15. viii. 1978, 近藤正樹採集。

他に平地で、ハヤシクロヤマアリ (*Formica* sp.) に寄生しているサムライアリ (*Polyergus samurai* YANO) の巣中から採集され記録がある。

4. *Batriscenellus (Batriscenellus) japonicus* (SHARP)

宿主蟻: ツノアカヤマアリ *Formica fukai*

WHEELER 2頭, 29. viii. 1978, 近藤正樹採集。

ヤマクロヤマアリ *Formica lemani* BONDROIT

1頭, 23. ix. 1978, 近藤正樹採集。

アメイロケアリ *Lasius umbratus* (NYLANDER)

12頭, 4. v. 1978, 小塩政行採集。

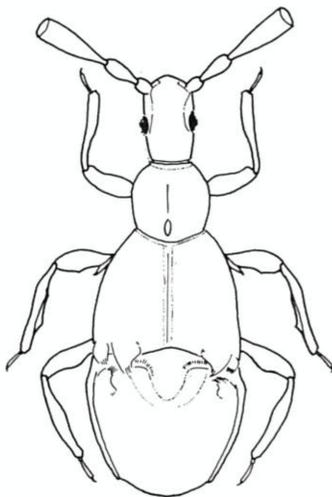
5. *Bryaxis (Arcobythus) harmandi* RAFFRAY

宿主蟻: クロヤマアリ *Formica japonica* MOTSCHULSKY 1頭, 23. vii. 1978, 田野口康彦採集。

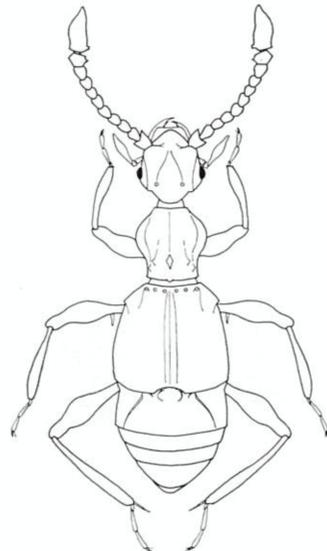
3, 4については、リター内から多数採集できるので真の好蟻性アリヅカムシとは言い難い。

末筆ながら、貴重な標本を多数いただいた近藤正樹博士、小塩政行氏、蟻の同定を心よく引き受けて下さった久保田政雄氏に心から御礼申し上げる。

(東京農大、田野口康彦)



第1図 *Diartiger fossulatus* SHARP, male



第2図 *Basitrodes longulus* JEANNEL, male

## ○対馬から未記録のヒゲナガゾウ

対馬に分布するヒゲナガゾウに関しては、長崎県生物学会から刊行された“対馬の生物”(1976)に、それまで報告された8種が集録されている。その後、中根猛彦(北九州の昆虫, Vol. 23, No. 3, 1977)により *Phaulimia aberrans* SHARP クロホシヒゲナガゾウ, 森本 桂 (ESAKIA, (12), 1978)により *Deropygus histrio* SHARP ヤツボシヒゲナガゾウ, *Araecerus fasciculatus* DEGEER ワタミヒゲナガゾウ, *Paramesus tessellatus* BOHEMAN マダラヒゲナガゾウの合計4種が追加記録され、現在まで12種が知られている。筆者は、1977年から翌年にかけて3度ヒゲナガゾウムシ類の採集の為に同島に渡島する機会を得、かなりの個体数を採集することが出来たが、その中で同島未記録で種名まで判明した13種と、東京農大昆虫学研究室に所蔵されている1種を加えた14種を同島新記録種として報告する。なお、下記の採集データの中で筆者によって採集された個体については、いずれも採集者名を省略した。

## CHORAGINAE 亜科

1. *Araecerus tarsalis* (SHARP) アアカシヒゲナガゾウムシ  
1頭, 御嶽, 22. v. 1977.

## ANTHRIBINAE 亜科

2. *Euparius oculatus oculatus* (SHARP) キノコヒゲナガゾウムシ  
2頭, 有明山, 29. vii. 1977.
3. *Acorynus asanoi asanoi* (NAKANE) サビマダラヒゲナガゾウムシ  
1頭, 佐須奈, 10. vii. 1970. 今村佳英採集
4. *Tropideres germanus* SHARP キマダラヒゲナガゾウムシ  
13頭, 有明山, 25. v. 1977.
5. *Tropideres japonicus* (ROELOFS) ヤマトヒゲナガゾウムシ  
1頭, 有明山, 24. v. 1977.
6. *Tropideres laxus* SHARP カオジロヒゲナガゾウムシ  
1頭, 御嶽, 22. v. 1977; 1頭, 佐須奈, 2. viii. 1977.
7. *Tropideres roelofsi roelofsi* (LEWIS) クロフヒゲナガゾウムシ  
1頭, 大久間山, 1. viii. 1977.
8. *Tropideres rufescens* (ROELOFS) アカミヒゲナガゾウムシ  
1頭, 仁田, 19. v. 1977; 1頭, 佐須奈, 20. v. 1977.
9. *Autorropis distinguendus* (SHARP) スネアカヒゲナガゾウムシ  
2頭, 佐須奈, 22. v. 31. vii. 1977; 1頭, 大久間山, 23. v. 1977.
10. *Habrissus longipes longipes* (SHARP) ナガアシヒゲナガゾウムシ  
3頭, 有明山, 27~29. vii. 1977.

11. *Rhaphitropis guttifer guttifer* (SHARP) コモンヒゲナガゾウムシ  
1頭, 御嶽, 22. v. 1977; 1頭, 大久間山, 23. v. 1977.
12. *Phaulimia confinis* (SHARP) キボシヒゲナガゾウムシ  
4頭, 有明山, 24. 25. v. 1977; 1頭, 佐須奈, 31. vii. 1977.
13. *Phaulimia pardalis* (SHARP) シロマダラヒゲナガゾウムシ  
6頭, 大久間山, 23. v. 1977.
14. *Aphaulimia devilis* (SHARP) ホソヒゲナガゾウムシ  
1頭, 御嶽, 30. v. 1977. 松田 潔採集; 3頭, 有明山, 27. 28. vii; 4. viii. 1977; 4頭, 大久間山, 1. viii. 1977; 2頭, 佐須奈, 2. viii. 1977.

以上で対馬から26種のヒゲナガゾウムシが記録されたが、*Notioxenus*, *Deropygus*, *Melanopsacus*, *Choragus*, *Exillis*, *Tropideres*, *Rhaphitropis* の各属に含まれる未記載種をも検している。

末筆ながら常日頃から御指導を賜っている東京農大の渡辺泰明助教授、及び専門的な御教示を賜った九大の森本 桂博士、長崎県の小田あけみ女史、また現地で多大な御協力を下さった松田 潔氏に深く感謝申しあげる。(東京農大, 妹尾俊明)

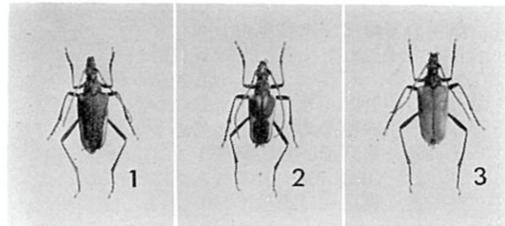
## ○木曾御岳におけるハナカミキリ3種の採集例

長野県木曾郡御岳(3063m)で筆者が採集したハナカミキリ類の中から注目すべき種を選んで記録しておきたい。

1. キベリカタビロハナカミキリ *Pachyta erebia* BATES

本種はそれ程変化の多い種類ではないが、下記の3型を共に採集した。

- f. *typica* (基本型) (写真1.)  
3♂♂1♀, 4. viii. 1974; 1♂1♀, 6. viii. 1978.
- f. *tamanukii* HAYASHI (写真2.)  
1♂, 4. viii. 1974.
- f. *kusamai* HAYASHI (写真3.)  
1♀, 6. viii. 1978
2. プチヒゲハナカミキリ *Corymbia variicornis* (DALMAN)
3. イガプチヒゲハナカミキリ *Corymbia igai* (TAMANUKI)



(名古屋市緑区, 湯沢宣久)

○アリヅカエンマムシと宿主蟻の記録

アカアリヅカエンマムシ *Hetaerius gratus* LEWIS, 1884は好蟻性甲虫として知られるが、わずかに長谷川仁・久保田政雄(1944), 久保田政雄(1965), 黒沢良彦(1976)等によってクロヤマアリの巢中より採集された記録があるだけで、その他の蟻との関係は明らかではない。筆者等は、ツノアカヤマアリとクロヤマアリの巢中より本種を採集したのでここに報告しておく。宿主蟻の同定は筆者等によるものである。

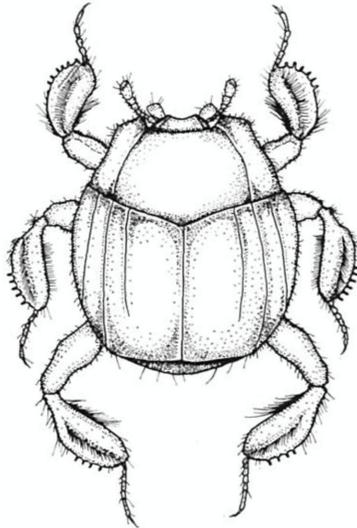
1. ツノアカヤマアリ *Formica exsecta fukaii* WHEELER の巢中より

1頭, 富士山(標高1450m), 24. ix. 1978, 小塩政行採集。

2. クロヤマアリ *Formica japonica* MOTSCHULSKY の巢中より

5頭, 富士山(標高1450m), 12. xi. 1978, 田野口康彦・小塩政行採集; 1頭, 富士山(標高1450m), 4. xii. 1978, 近藤正樹採集。

なお, 本種が発見された地域では蟻の越冬期の巢の最深部の位置は平均80cmで, 大多数の蟻は20~60cmの地中で越冬している。従って, アカアリヅ



*Hetaerius gratus* Lewis (scale: 1 mm)

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本180円)

なお, 有頭針00, 0号もできました。その他, 採集・標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話(03)409-6401(ムシは一ばん)

振替東京21129

志賀昆虫普及社

カエンマムシの採集データおよび生息場所を勘察すると, 本種は蟻の巢の中心域で成虫越冬することがうかがえる。

(東京農大, 田野口康彦・小塩政行)

○台湾におけるアヤマナビロタムシについて

すでに黒沢博士が *Sambus quadricolor* E. SAUNDERS アヤマナビロタムシの産地として台湾をあげているが(甲虫ニュース No. 11, p. 3)私の手許にも台湾墾丁公園産の1♂があるので報告しておく。なお標本を御恵与下さった妹尾俊男氏に深謝する。

1♂, 台湾省屏東県墾丁公園, 16. iii. 1977, 妹尾俊男採集。(横浜市磯子区, 秋山黄洋)

——<連絡・報告>——

◇「日本産甲虫目録 第3輯」について

今度「日本産甲虫目録 第3輯」が発刊されましたのでお知らせ致します。内容は下記の通りです。

No. 15. コガネムシ科 [コフキコガネ亜科] (野村 鎮・小林裕和) 20頁; No. 16. カミキリムシ科 [ホソカミキリ亜科, ニセクワガタカミキリ亜科, ノコギリカミキリ亜科, クロカミキリ亜科, マルクビカミキリ亜科] (林 匡夫) 6頁; No. 17. ハムシ科 [トゲハムシ亜科] (木元新作) 3頁。

これら各号は分冊せず一括販売することとし, 販売の窓口は第1輯及び第2輯と同様ですので, 購入希望者は東京通販サービス社に代金及び送料(¥120)をそえてお申し込み下さい。販売価格は1セット(No. 15—No. 17) ¥900ですが, 会員は同封の割引券を利用すれば(1回限り) ¥700で購入することが出来ます。なお, 購入申込先は下記の通りです。

〒156 東京都世田谷区千歳局私書箱33号

Tel. (03) 420-6012 郵便振替 東京 0-73156

東京通販サービス社

甲虫談話会

会費(一カ年)1500円, 次号は12月25日発行予定,

投稿〆切は10月30日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話(364) 2311 振替東京60664

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,400, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下 ¥1,400, 4個以上 ¥850 (以下同様), 第二地帯 ¥1,400, ¥950, 第三地帯 ¥1,600, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥140)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25

電話(03)811-4547, 振替 6-113479